

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
芸術	書道 I	1年普通科 1年国際科 1年農業環境科 1年福祉科	2単位	書 I (光村図書)	

到達目標	<p>① 書の表現方法や多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>② 書の高さや美しさを感じ、意図に基づいて構成し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>③ 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
------	--

評価の観点	A 書の知識・技能	C 書への思考力・判断力・表現力	D 主体的に学習に取り組む態度
	書の専門的な知識について理解している。 用筆、運筆、字形のとり方などの特徴を捉えて書く力を身に付けている。	書の高さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。

学習の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動への参加状況（制作活動への取り組み状況） ・ 学習記録 ・ 制作作品（完成度） ・ 鑑賞記録
-------	---

単元	学習内容	到達目標
書道で学習すること	書道で学習すること 書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに記入する ・ 国語科書写と芸術科書道の違いを理解する。 ・ 漢字の成り立ちと変遷について理解する。 ・ 書道の学習にに必要な用具・用材について理解し、正しく丁寧に扱う心を養う。
漢字の書	楷書の古典 九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑 雁塔聖教序 顔真卿の書 造像記 鄭義下碑	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典を臨書する意義について理解する。 ・ 楷書の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形のとり方などについて注意して臨書する。 ・ 唐の四大家について理解を深める。 ・ 互いの作品を鑑賞し、書の美を味わう。

篆刻	印稿 実践 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻の用具・用材について理解し、篆刻の仕方について学習する。 ・篆書を元に印稿を正確に作成する。
漢字の書	創作	<ul style="list-style-type: none"> ・創作の手順に従い、学んだ古典の特徴や技法を生かして創作する。 ・創作作品を鑑賞し、感想を述べ合う。
	行書の古典 蘭亭序 風信帖	<ul style="list-style-type: none"> ・行書の運筆・用筆・字形の取り方に注意して臨書する。
仮名の書	基本点画 いろは歌 連綿 散らし書き	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立や仮名の種類などについて理解する。 ・仮名の基本的な線、運筆について理解し、練習する。 ・仮名の基本的な筆使いに注意して体裁良く書写する ・仮名の用具・用材と特徴について理解する。 ・仮名を書く際の特徴である連綿について理解し、練習する。 ・全体の構成には（行書き）と、（散らし書き）があることを理解し、練習する。
漢字仮名交じりの書		<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある漢字かな交じりの書を知る。 ・漢字とかなの調和を考え、紙面の調和を図りながら創作する。 ・文章と作風に関連性を持たせる。 ・表現の意図に合うように、構成、用具用材、字形、筆使い等に工夫する。 ・創作作品を鑑賞し、感想を述べ合う。
生活の中の書1	小筆	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中での書について考え、その効用について理解する。
生活の中の書2	硬筆	<ul style="list-style-type: none"> ・ペン字で文字の構成、体裁を意識して書類（履歴書・手紙等）を作成する。